



# MALAWI VOICE VOL.13

～アフリカの国・マラウイからのおたより～

青年海外協力隊 平成27年度3次隊  
言語聴覚士 飯田知美

## ごあいさつ

5月後半になり、マラウイに来て2度目の“冬”に差し掛かろうとしています。教科書的には“涼しい乾季”という季節は名ばかりで、時々雨が降る朝晩は長袖が手放せない、寒い日々が続いています。今でも時々続く停電の影響で、夜に辺りの電気が一斉に消えると、星がとてもきれいに見えます。日本では田舎に行ってもなかなか見えないような、小さな星もたくさん見え、心が癒されます。マラウイに住む人々にとっては見慣れた光景であり興味を示さないのですが、私にとっては2年目を迎えた今でも、夜空が輝いて見えます。

さて、今年も5月19日に卒業試験を終えた最終学年の生徒たちが、10年以上過ごしたこの学校を旅立っていきました。前回もとても寂しかったお別れですが、1年以上、ほとんどの時間を共に過ごした生徒達がこの場を去っていく今回は、以前にも増して寂しさがこみ上げてきました。いつの間にか聴覚障害の生徒の間だけで使われるブロークン手話（ネイティブ手話）もすっかり覚えて、日本語ほどではありませんが、伝えたいことも、どうでもいい世間話も口喧嘩（手話喧嘩？）もできるようになったのは、この子たちのおかげです。「将来は医者になりたいな…聴覚障害があってもなれるかな…」「お母さんみたいにいろんな人の髪をアレンジする仕事したいな…」「俺は小さいけどサッカー選手になれるかな？」とたくさんの夢を語ってくれたこの学年の生徒達。これからセカンダリースクールという厳しい場所に進学していても、夢を持ち続けてたくましく生きていってくれることを願っています。



“Nda sangalala chifukwa ta  
kumana nanu. Zikomo anzanga!”  
「あなたたちに会えたから私は幸せです。  
ありがとう my friends !」

2017年5月  
飯田知美



# マラウイ伝統衣装 “チテンジ”



今回は、マラウイの伝統的な衣装であるチテンジについて今回ご紹介します。マラウイの女性（特に農村部で暮らす女性）は、普段の生活から、冠婚葬祭などのフォーマルな式典の時でも、このチテンジを身に着けています。マラウイ生活でどの地域で暮らす人でも見ない日はないこのチテンジについて、そのいろいろな使い道も含めて写真でご紹介していきます。

## 1. チテンジとは

マラウイでは以前、女性のミニスカートやパンツスタイルが禁止されていました。そのため、マラウイの女性は、腰から足のラインを覆うように、チテンジという布を巻くか、ロングスカートやドレスを身に着けていました。現在では、女性の衣服の自由化を大統領が演説で話題にすることもあり、特に都市部を中心に、時代の変化によって女性でもジーンズや短いスカートをはいて歩く姿をよく見かけるようになってきました。しかし、今でも村や地方へ行くと、ほとんどの女性が年代に関係なく、チテンジを身に着けています。チテンジは腰に巻いて身に着けるだけではなく、ドレスにしたり、シャツやズボンにして使用されることも多いです。そのため、マラウイでは至る所に“テーラー”という服飾職人が店を持ち、主要な職業の1つになっています。私の配属先の学校でも、職業訓練授業の1つのコースにテーラー科があります。チテンジは女性だけのものではなく、男性はワイシャツに仕立てたり、男子生徒もチテンジで作った短パンをはいている姿をよく見かけます。

チテンジの良いところは、薄いので洗濯しても乾くのが早く、丈夫でなかなか破れず、デザインが本当に豊富で自分の好きなものを選ぶ楽しみがあるところです。1メートル辺り 1000 クワチャを超えるため、マラウイの人々にとって決して安いものではありませんが、長くいろいろな用途に使用できるため、みんなに愛されています。

“マラウイの伝統衣装” とご紹介したチテンジですが、実際にはマラウイで生産されたものよりも、タンザニアなどの他国から輸入したものが多くそうです。地域に関係なく、市場にいくと、色とりどりでデザインも様々なチテンジが売られています。そのデザイン性から、外国人からの人気も高く、JICA ボランティアの間でも、チテンジのドレス、パンツ、バッグなど、チテンジアイテムを一つも持っていない人はおそらくいないほど、身近なものです。友人の話では、最近（昨年？）パリコレでチテンジが紹介されたらしく、近い将来世界的に注目度が上がって日本でも“チテンジブーム”が到来する日が来る…かもしれません。



## 2. 万能なチテンジの使い道

ここでは、衣服として身に着けるだけでは終わらない、チテンジの万能さをご紹介します。

### ①抱っこ・おんぶ紐

マラウイでは赤ちゃんや小さい子どもを連れて出かける時、マーケットで物を売る仕事をする時などに、日本のおんぶ紐の代わりにチテンジが活躍します。はっきりとデータを取ったわけではありませんが、マラウイの乳幼児は同月齢の日本の子どもと比べて、体が小さい印象があります。そのため、2～3歳の子どもであっても、お母さんがチテンジにくるんで移動している姿をよく見かけます。チテンジに全身をすっぽり覆われ、頭と手足が出ている赤ちゃんはとてもかわいいです。お母さんだけでなく、マラウイでは兄弟（主に女の子）が赤ちゃんの子守りをする機会も多いため、小学校の高学年ぐらいになると、子ども達も上手に弟や妹を抱っこします。そして村を歩いていると、このぐらいの年齢の女の子がチテンジに弟や妹をくるんで歩いているところをよく見かけます。ちなみに、移動をする時は後ろにおんぶするようにくるむことが多いですが、赤ちゃんが泣いているとき、授乳するときは前に抱っこするように移動させます。



写真はクラスメートの弟を抱っこしている女子生徒です。お母さんが説明会に参加している間、子守をしています。お母さんじゃないためか、やや渋い表情。

### ②ふろしき



マーケットで野菜を大量に購入する時、衣服や小物をたくさん移動するとき、チテンジはふろしきの役割も果たします。日本でも“ふろしき文化”があるため、この使い方は想像しやすいと思います。

ところで、テレビ番組などでアフリカの方々が頭に大きな荷物に乗せて運んでいる姿を見ることがよくあります。腕力の弱い女性は特に、バケツの水や、調理用の薪、メイズの袋を運ぶときに頭に掛けて運びます。この時、直に頭に物を乗せると痛いので、チテンジを鍋敷きの様に渦上に丸めて、クッションとして使用しています。右の写真では、肝心の部分が写っていませんが、木材と頭の間にチテンジのクッションを使用しています。マラウイの人々は首が丈夫なのか、20kgのジャガイモを入れた袋でさえも、頭に掛けて何分も移動することができます。同じことを私が挑戦してみると、見事に翌日に筋肉痛で首が動かせなくなります。

### ③ティッシュ・ぞうきん

日本で鼻水が出た時、大体近くにティッシュがあります。しかし、マラウイでは、ティッシュは非常に高価で、私も購入したことがありません。私は代わりにトイレットペーパーを使用しているのですが、トイレットペーパーも村の家で見かけることはありません。配属先の学校でも、トイレットペーパーの代わりに、使用済みのノート破いてぐしゃぐしゃにほぐしてから、トイレに持っていく姿を時々見かけます。そんなマラウイで、自分が鼻をかむとき、または子どもの鼻水をふき取るとき、身に着けているチテンジを使います。最初の頃は、「え…汚い…」と抵抗がある光景でしたが、「どうせすぐ洗うんだからいいか」という考えが、すっかりなじんでしまいました。そして、床に何かをこぼしたとき、パッとふき取る時にもチテンジが登場します。ちなみに、このぞうきん代わりに、洗濯待ちの洋服もよく使われます。本来の掃除用のぞうきんとしても、ボロボロになった服が使われることがあります。

### ④カーテン、テーブルクロス



これは現地の方の用途ではなく、主に外国人ボランティアの使い方です。JICA ボランティアの友人宅に遊びに行くと、たいていはチテンジをカーテンとして使用したり、テーブルクロスとして使っています。私の家でも、全ての窓のカーテン、テーブルクロス、収納ボックスの目隠し（ヤモリの糞対策）と、至る所でチテンジが大活躍しています。この使い方は、現地の人からすると少し「もったいない…」と感じるようです。

### ⑤小物

先ほどお話ししたテーラーの所に購入したチテンジを持っていくと、私たちの注文に合わせて、様々な小物を作ってもらえます。ボランティアが所持しているものとして、先ほどご紹介したドレスやバックのほかに、財布、鍋敷き、パソコンケース、ケータイケース、ネクタイ、フォトフレームなどがあります。現地の方がこれらの物を持っているのはあまり見かけませんが、学校の生徒たちはよくチテンジを帽子にしてかぶっています。折り紙をして遊ぶととても不器用で、紙飛行機を一つ作るのにもしずいぶん時間がかかる生徒達ですが、チテンジを持たせると、いろいろな形にアレンジしておしゃれを楽しむことができます。



以上、ご紹介した用途の他にも、シーツや夏場の掛布団として、寒い時期のストールとして、シャワー後のバスローブとして、地面に座るときのビニールシート代わりとして、本当に生活のあらゆる場面でチテンジは活躍しています。マラウイの人々にとっても、外国人にとっても、生活する上でなくてはならない万能な布“チテンジ”はマラウイの伝統衣装というよりは、“マラウイ生活の必需品”と呼ぶ方が適切かもしれませんね。



## 4月の活動の様子



4月前半はターム休みでした。卒業試験に向けて学校に居残りしていた8年生の生徒達の勉強を手伝ったり、家に遊びに来た卒業生と一緒に畑仕事をして過ごしました。

4月21日に、全生徒対象に補聴器の寄付イベントがありました（以前にすでに寄付された生徒と、前タームにイヤモードを作成した際に学校にいなかった生徒を除く）。ちょっとしたトラブル（日程の連絡が来ずに知らなかった）があり、もともと私も一緒に行くはずが行けなくなってしまいましたが、無事にほとんどの生徒達が、自分の補聴器を手にすることができました。当日、生徒は早朝に政府が用意した大型バスに乗り、片道3～4時間かかるマンガチ県まで行ったそうです。日帰り、学校に戻ってきたのは夜の10時頃だったとのことで、次の日はいつもは5時半頃に聞こえる生徒たちの声が、7時ごろまで聞こえてきませんでした。

### ～ 生活の様子 ～



今年も学校の給食用のメイズの収穫をお手伝いしてきました。畑は非常に広く、全生徒と多くの職員総出で2日間作業しました（収穫のみ）。

夜の女子寮で算数の授業。この日は定規の目盛りを読む練習（5年生）。足や手の長さを測って、「さあ私の足はあなたより何センチ長い？」という応用問題は8年生のテスト勉強に活用。



前タームから作り始めた手作り補聴器ケース。いい容器が見つかり、見た目も本格的に。



プレスクールの合同体育の授業。少し複雑なルールの鬼ごっこ。私も参加するとみんなが私を追いかけるので途中から見学。

ある週末のひと時。サングラスとカメラでテンションは最高潮。

## ～ムランジェの滝・リウォンデサファリパーク～

どちらも4月ではありませんが、ニュージーランドから来たボランティア仲間と一緒に、2つの観光地に行きました。観光業が盛んではなく、外国人が観光目的でマラウイを訪れることは少ないですが、普段の“非日常的な日常”はもちろんのこと、観光地としても、マラウイの魅力はたくさんあります。

### ①ムランジェ山

マラウイで最も標高の高い山です。学校のグラウンドからも見ることができ、配属先の「マウンテンビュー」という名前の由来となっている山でもあります。基本的には登山を目的として訪れる外国人が多いですが、この日は「Tomomi、ムランジェにハイキングに行こう」という誘いを受け、ムランジェ山のふもとにある小さな滝を見に行きました。しかし、私の想像していた“ハイキング”とは違い、実際には山道を片道1時間程かけて“登山”をしてきました。何も知らずに気軽について行った私にとっては大変な旅でした。滝自体は小さいのですが、歩き疲れた体に水の音と水しぶき、持って行ったサンドイッチのお弁当が染みわたりました。

自宅から登山口まで、順調に行くと3時間程で着くので、日帰りの旅が可能でした。帰りは通り雨のシャワーが汗を洗い流してくれました。



## ②リウォンデナショナルサファリパーク

こちらマラウイでは有名な観光地の1つです。マラウイにサファリは数カ所ありますが、最も規模の大きいのがリウォンデサファリです。正直、近隣の国のサファリと比べると動物の数も種類もとても少ないですが、道中の交通事情や宿泊先の環境も含め、アフリカらしさを満喫できた旅でした。

### <ボートサファリ>

ボートに乗って、川を散策するサファリです。大量のカバを見ることができます。その他にはワニや、水鳥、陸上にいるゾウなどが見えました。なんとなくシルエットからのんびりしているイメージのカバですが、ボートに気付くとすごいスピードで水の中に逃げていきました。逆に、危険なイメージのワニがのんびりしていて、すぐ近くまで操縦士のマラウイアンがボートを近づけることにも驚きました。



### <ゲームドライブ (ドライブサファリ) >

こちらはサファリパークの敷地内を専用の車で散策します。季節や時間帯によって見られる動物の種類や数は変化するそうです。

